

※ 解答は、《解答欄》に書きなさい。

ポイント

- ・ 互いの発言を検討して、自分の考えを広げる。
- ・ 知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる。

中田さんのグループでは、「一番」というテーマで作文を書くことになりました。次は、発想を広げるために行われた話し合いの様子です。

【話し合い】

中田 「一番」と聞いて、まっ先に思いついたのが英語の「ファーストペンギン」という言葉です。ある本でこの言葉の成り立ちを知り、道を切り開いていく人を表すパイオニアに通じる言葉だと思いました。

池本 「ファースト」は「一番」という意味ですが、一番の下になぜ「ペンギン」が付くのですか。

中田 氷山の縁に一列に並んでいるペンギンを思い浮かべてください。目の前には海があります。そこへおいしそうな小魚の大群がやってきます。おなかをすかせているペンギンたちは、すぐに海へ飛び込むところですが、全員が一時ためらいます。

池本 どうして？

野村 自然界では、ほとんどの生物が、常に天敵を警戒しながら生きているはずだから、すぐには飛び込めないのでは。

中田 そのとおりです。ペンギンの好物である小魚の群れの近くには、ペンギンを好物とするアザラシが泳いでいるかもしれません。

池本 それで、全員がためらうんだ。

中田 そんな中で、一羽のペンギンが勇気を出して海に飛び込むと、他のペンギンが次々と続くそうです。そこから生まれたのが、一番に行動を起こす人を表す「ファーストペンギン」という言葉です。

池本 なるほど。元気の出そうな言葉ですね。

野村 最初に飛び込むペンギンも勇気がいますが、もし最後の最後に飛び込むペンギンがいたとしたら、一羽だけで海中にとどまる可能性が高くなります。そう考えると、そのペンギンも、危険覚悟で飛び込む勇気をもっているといえるのではないのでしょうか。

池本 「ラストペンギン」も、どつしり構えていて、肝の太い勇者つてことですね。

中田 ところで、野村さんが「一番」という言葉から考えたことは何ですか。

野村 僕が思いついたのは、「トップ」という言葉。それも「世界のトップ」という言葉です。僕の父は、少年サッカーのコーチをしていて、「今の子どもたちは幸せだ。世界のトッププレーヤーが集まるヨーロッパリーグの試合を、いつもテレビで見ることができるのだから。」とよく話しています。

中田 ということは、お父さんたちが子どものころは、海外サッカーの中継があまりなかったということですか。

野村 サッカーに限らず、スポーツ中継は国内の試合がほとんどだったそうです。

池本 スポーツの分野で、世界で活躍する若者が増えているのは、直接的ではないにしても、小さいころから世界トップレベルのプレーに接していることが影響しているのかも知れませんね。

【二ページ】

野村 確かにそれはあると思います。父は、「いつかは自分もあの舞台に立ちたい。」というイメージをもって練習するときの、「舞台」のレベルが高ければ高いほど上達度も上がると話してくれます。

中田 ただ、自分と比較する対象が「世界のトップ」だと、ギャップが大きすぎて、早々に夢をあきらめてしまう若者も出てくるのではないでしょうか。

野村 そのあたりは、個人差があつていいと思います。僕のサッカー仲間は、トップチーム入り、つまりプロサッカー選手を目指している人が多いのですが、大学生になつたら本格的なサッカーはせず、先生になるための勉強をしたいと言つている人もいます。

池本 プレーヤーとして一番を極めたいという人と、指導者として一番になりたいという人とは、同じプレーを見て、受け止め方が違つてきそうですね。

話し合いのあと、中田さんは、次の作文を書きました。

【作文】

「ファーストペンギン」という言葉がある。意味は、①開拓者に似ている。開拓者と類似した言葉の中に、なぜペンギンが登場するのかと、疑問を感じる人は多いだろう。

ペンギンは主に陸上で暮らす。しかし、ペンギンの生息地は極寒の地である。陸上にはほとんどエサがない。そこで、ペンギンは海にもぐつて漁をする。彼らは長い時間、また深くまでもぐる能力をもっているそうだ。

海辺には、横に並んだペンギンの群れ。そこへ小魚の大群がやつてきた。さあ、いつせいに飛び込んで、みんなでこちそうを……とはならない。二の足を踏む理由は、(②) からだ。このとき、先陣を切る者こそがファーストペンギンである。一羽が飛び込めば、(③) を切つたように他の者も海へなだれ込む。

私は、どちらかというど、アオロアよりもリーダータイプだ。これまでもファーストペンギンであつたし、これからもファーストペンギンでありたいと思う。ただ、過去に、ゆつくりと行動を起こす人を見て、弱気だなあとか、ぐずぐずしてるなあとか思うことがあつた。この点は大いに反省したい。ファーストペンギン同様、「ラストペンギン」も勇気があることに気づいたからだ。また、「セカンドペンギン」や「サードペンギン」は、気配りのできる人ともいえそうだ。

これからは、積極性を大切にしながらも、「一番」にとらわれすぎて、物事の「一面」にしか目がいかないということにならないよう気をつけたい。

1 【作文】の——線部①「開拓者」の意味として最もふさわしい言葉を、【話し合い】の中から十字で抜き出して書きなさい。

2 【作文】の(②)に入る言葉を、【話し合い】の内容に基づいて書きなさい。

3 【作文】の(③)に入る言葉を、次のアからエまでのの中から一つ選んで、その記号を書きなさい。

ア せき イ いき ウ とき エ さき

4 【話し合い】や【作文】を読んで、あなたが感じたり考えたりしたことを、次の条件にしたがつて書きなさい。

〈条件〉

- 「ファーストペンギン」「トップレベル」のいずれか一方を題とし、選んだ方に○を付けること。
- 書き出しを二字分下げて、一段落で書くこと。
- 八十字以上、百二十字以内にまとめて書くこと。

シート 17 正答例

1 道を切り開いていく人

2 (例) ペンギンを好物とするアザラシが泳いでいるかもしれない

3 ア

4 (例1) ファーストペンギン

○私は、^{ぼうけん}冒険ができないタイプだ。危険を^{おぼ}冒して行動したとき、もし失敗したらどうしようと考えてしまう。性格的にファーストペンギンにはなれそうにないが、「なれない」と決めつけてしまっている自分を変えてみたいとも思う。(105字)

(例2) トップレベル

○最近、大学生の姉がダイエットを始めた。野菜中心の食事を一日五食、加えて毎日のように運動をしている。姉がまねているのは、世界有数のスーパーモデルが取っている方法だ。トップレベルにある人の情報が身近に存在する現代は、とてもいい時代だと思う。

(119字)